

村井邦彦 議員



市民にどのような愛を感じているか

問

私は愛知は「愛」「知恵」と理解し、愛は農業から学んだ。議員の役目は、市を大好きなまちにすること。「大好き」なことが発展するのではないかと思う。

市長は市民に対し、愛をどのように感じているか。

愛のキャッチボールを行政はやるべき

答 市長

職員の仕事に対する市民の理解、その愛のキャッチボールみたいなものを行政はやっていかなければならないと思っている。

給食で生野菜を食べさせているか

問

農業と食育について、人間は農業があつてみんな生きていくが、給食で生野菜を食べさせているか。

生野菜は提供せず調理法を工夫

答 教育課長

平成8年の0157による食中毒事故以後、生野菜は提供せず、煮物等、調理法を工夫して提供している。

問

生野菜を食べさせないと食育にはならない。そういう菌の検査もして、将来的に生野菜を食べさせることができないか。

答 教育課長

食中毒のことを考え、できたら家庭でとってほしい。

積極的に農業体験を勧めてはどうか

問

畑で野菜を作るなど、積極的に教育の場面でやれば、これが本当の食育につながると思うがどうか。

各校が総合学習等でやっている

答 教育課長

各学校の総合学習の時間で、米作から餅つき、サツ



▶十四山西部小児童による田植え体験

マイモを作って給食で使用する等をしている。

農業体験は子ども的人格形成に大きな影響を及ぼす。今後も野菜・米づくり等をしていきたいと思う。

「市脳交笑」でまちづくりを

問

私は、市民が1番、知恵が2番、「コミュニケーション」して笑つにちなみ「市脳交笑(土農工商)」を考え、まちをどんどん明るくしたいと考えるが、どうか。

対話を重視した姿勢は同感

答 市長

市民との対話の中から、しっかりとしたまちづくりを皆さまとともにしていくという姿勢は変わらないので、「市脳交笑」という意味合いも結構かと思う。